現職研修奨励事業　グループ研修

教職員のキャリアを生かした放課後ミニ研修の在り方

下松市立花岡小学校
教頭　吉田　哲朗

１　はじめに

「学級経営」「学力向上」「授業力向上」「生徒指導」「特別支援教育」「家庭・地域との連携」等、教職員に多様な資質・能力が求められる。このような中、教職員の大量退職が退職・採用が進み、若手教員・ミドルリーダー等の人材育成が急務となっており、従前の校内研修だけでなく、新たな研修の場が必要となってきている。そこで、これまで行ってきた若手教員・ミドルリーダー・ベテラン教員が入り交じったミニ研修を一歩進めて、若手教員が中心となって、ミニ研修を企画・運営することを通して、若手教員の人材育成の充実を図るとともに、本校教職員全体の資質・能力の向上をめざすこととした。

２　今年度の取組

（１）放課後ミニ研修会の再考

本校では、これまでも放課後ミニ研修は活発に行ってきた。その成果はあるものの、研修部主催のミニ研修であるため「全員が参加すべき」という意識が働いてしまい、教職員による自由意思での参加という雰囲気にはなりにくいという課題があった。また、勤務時間内で実施しなければならないという縛りもあり、自由な時間設定が難しいという面もあった。そこで、今年度１学期は、従来通りのミニ研修を継続しながら、研修部と若手教員、管理職で協議を続け、新たなミニ研修の在り方を模索した。そこで、生まれたのが「放課後自主ミニ研修会『ゆる研』（以下、ゆる研と記す）である。

「ゆる研」とは、文字通り放課後の短時間に行う「ゆるめ」の研修会である。これまでのミニ研修の課題を踏まえ、若手教員が「ゆる研同好会」の世話人となり、その「ゆる研同好会」が主催する放課後自主ミニ研修会として、再スタートを切ることとした。

（２）ゆる研同好会世話人の実施

放課後自主ミニ研修「ゆる研」を始めるに当たって、まず、ゆる研同好会世話人会を開いた。世話人会で決定したことは次の通りである。

１　研修内容
教科指導、生徒指導、学級経営、教職一般研修など、教職に関わる幅広い研修

２　世話人とその役割
世話人は教職６年目までの教員とし、「ゆる研」の企画・運営（日時・場所・内容の設定、講師の依頼、教職員への案内、会の進行等）にあたる。

３　世話人代表
世話人の中から、代表を選出し、代表は、他の世話人による放課後ミニ自主研修「ゆる研」の企画・運営をサポートする。

４　顧問
管理職があたり、世話人の相談を受けたり、世話人に助言したりする。

５　「ゆる研」の開催
放課後ミニ自主研修「ゆる研」は２ヶ月に１回程度開催する。「ゆる研」は文字通り「ゆるめの会」であり、参加できる者が、参加できるときに参加する研修会とする。なお、やむを得ず計画どおりに進まなくとも責めてはいけない。

（３）放課後ミニ研修「ゆる研」の実際

今年度９月に、初めて「ゆる研同好会世話人会」を開催し、本格的に活動が開始することとなった。９月当初の計画は次のとおりである。

	テーマ	講師	担当教員（ペア）
1	道徳科の評価について	道徳推進教師	４年目教員・５年目教員
2	国際理解教育について	青年海外協力隊経験者	４年目教員・４年目教員
3	体育科授業づくりについて	体育主任	３年目教員・５年目教員
4	理科実験講座	理科長期研修経験者	６年目教員・５年目教員
5	算数科授業づくりについて	学力向上推進リーダー	（未定）

初めての取組であるため、若手教員も手探りで企画・運営を行ったため、実際は次の①～③の開催にとどまったが、一つ一つは大変充実した研修となった。

①「道徳科の評価についての研修」（１１月６日　１６：００～１６：４０）

本校では今年度、２学期末と年度末に道徳科の評価を行う計画であった。若手教員のみならず、本校の多くの教員のニーズがあったため、道徳科の評価の研修を行った。授業で子どもの何をどのように見取るか、通知表の所見をどのように表すかについて具体的な研修を行った。

参加者　１２名

《講師：道徳推進教師（ベテラン教員）より》

校内の多くの先生方の悩みであった評価について行った。特に若い先生方には、先に見通しをもつことにつながったのではないかと思う。

《参加者：若手教員より》

・実際の道徳ノートを見ながらの研修だったので、どう評価すればよいかが少し分かりました。評価するためには授業を変える必要があることにも気付きました。
・不安に思っていたことが分かってよかったです。２学期の評価に即役立ちました。少人数だったので質問しやすくてよかったです。

②国際理解教育「ウガンダ・ライフ」（１月３０日　１６：００～１６：４０）

本校の若手教員の中には、青年海外協力隊として、ウガンダに派遣され、２年間現地の小学校教育に従事した者がいる。その経験を生かし、ウガンダの人々の暮らしや小学校の様子、日本との違いなどについて、スライドや現地から持ち帰った品物を用いながら話をしてもらった。

参加者　３４名

《講師：青年海外協力隊経験者（若手教員）より》

先生方に伝えることで、これまでの経験や考えをまとめたり、再認識したりすることができ、何より自分が楽しんで話すことができました。日々の授業もこのような気持ちが大切なのだと実感する機会になりました。

《参加者：若手教員より》

・話を聞く中で、自分の世界も広がったように感じました。
・聞いた話を子どもたちにも伝えたところ、子どもたちももっと一生懸命学ばなければという気持ちになったと話してくれました。
・６年生の社会科学習にも関係する内容なのでとても興味深かったです。自分の学級の子どもたちにも青年海外協力隊の話を聞かせていただきたいと思っているところです。

③体育科授業づくり「ネット型ゲームの指導」（２月２７日　１６：００～１６：４０）

本校の体育主任は、中学校保健体育科教員の経験をもっている。その経験を生かして、ネット型ゲームの授業づくりについて研修を実施した。動きを高めるための学習カード、見通しをもって活動するための学習カード等、実際に授業で使ったものを用いた講話や、実技指導を行った。　参加者２１名

《講師：体育主任より》

中学校での経験が生かせてよかった。何よりも皆さんと一緒に体を動かしながら研修ができたことがよかった。このようなコミュニケーションも大切だと思う。

《参加者：若手教員より》

実際に子どもたちがやっているように、私たち自身が体を動かしてみることは大切だとしみじみ感じた。

３　今年度の成果と課題

《成果》

・若手教員が中心となり、企画・運営する放課後自主ミニ研修会「ゆる研」が軌道に乗り始めた。

・「ゆる研」に参加した教員だけでなく、講師を経験した教員からも好評価を得ており、一つ一つの研修を意義あるものにできた。

《課題》

・企画をする際、諸行事や会議のスケジュールの合間を見て、日程調整をするのが大変であった。

・もう少し具体的な計画（期日・内容）を世話人会で決めておかないと、担当する教員だけでは企画を詰めていくことは難しかった。

４　おわりに

今年度は、これまであったミニ研修の見直しから取りかかったため、本格実施が遅くなった。来年度は、年度初めに、教職員に「希望する研修内容」「授業づくり・学級づくりの悩み」「担当可能な研修内容」「特技」等、アンケートをとり、まず、校内の実態把握をしていく。その上で、早い段階で世話人会を開催し、大まかな研修内容、予想される講師、具体的な期日等を設定し、実現可能性の高い研修計画を立てていく。このようにすることで、今年度の成果を生かし、本校に生まれた放課後自主ミニ研修「ゆる研」を確かな学びの場としていきたい。